

Title	松尾謙介君を偲ぶ
Sub Title	
Author	島崎, 隆夫
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1951
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.44, No.10 (1951. 10) ,p.625(73)- 626(74)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19511001-0073">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19511001-0073</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

二五%、一〇%、四%であつて、一般人口に比して、アメリカ都市の實業的雰囲気の中に生れ又は成長した者が著しく多い。又、誕生又は成長地に就て見ても、一般人口(一八五〇年)が都市(人口二、五〇〇以上)一六・八%、農村(人口二、五〇〇以下)八三・二%であるに對し、指導的實業家(生年に最も近い國勢調査による)は都市六〇%、農村四〇%である。従つて結論は右に同じである。

次に、彼等が生れ成長した家庭での父の職業は何であつたか。一八七〇年のアメリカ男子の職業統計(タウシツグ及びジョスリンの研究による)によれば、實業家六・二%、自由職業二・五%、農民三二%、農村及び都市勤勞者五六・七%、其他二・六%であるに對し、(この外に C. Wright Mills, "The New Middle Class: A Study of White Collar People" による數字もあるが、大差ないので省略する。)指導的實業家の父は、實業家五六%、自由職業三〇%(合計八六%)農民一二%、農村勞働者〇%、都市勤勞者二%であつて、一般人口に比して、下層階級に生れ成長した者は少い。

又教育程度に就ても、一般の教育程度が小學校卒業である時代に、彼等の場合は小學校卒業で止める者は僅か二二%で三七%はハイスクール又は同程度に、残りの四一%は大學校に行つて(約四分の三は卒業)ゐる。之を一般(一八七〇年の大學生數は、一二二〇歳の白人男子の僅か三・三%に過ぎな

い)に比較すれば、遙に教育程度が高いのである。

#### 四 結論

指導的なアメリカの實業家及び歴史家が今日も主張してゐる様に、云はゞ誰でも大會社の社長になれたといふ事が眞實であるとしても、少くとも廿世紀の始に於ては、指導的實業家が當時の一般の人々と判然區別される或社會的資格を有してゐた事も眞實である。十九世紀の前半又は四分の三には、かゝる資格が彼等に顯著に見られないが、二十世紀に於ては、逆に彼等に一般に見られる性格が、人口の残りの部分には殆んど見られない。其故に少くとも、以上に述べた諸性格を有した人々が競争に打ち勝ち、一般の人々の上に力を振ふに至つたといふ推定を下すことが出来る。(中村勝己)

### 松尾謙介君を偲ぶ

松尾謙介君は昭和十七年四月慶應義塾大學經濟學部豫科に入学、昭和二十二年三月慶應義塾大學經濟學部を卒業し、同年四月經濟學部副手となり、農業經濟學、主として中國農村問題を専攻し、更らに、昭和二十五年經濟學部助手となる。病氣靜養中、昭和二十六年八月十七日午後五時過ぎ山梨縣河口湖畔にて水泳中に心臓麻痺により卒去せられた。享年二十八であつた。

君は生來讀書を好み、特に語學の才に長じていた。研究生活中最も關心を寄せていた中國農村問題の研究は、君が既に早く慶應義塾大學在學中上海に滞在し、彼地に於て多くの友人と親交し、親しく中國の現情を見聞せしことにより、その端が開かれたものであつたと聞く。終戦後歸國し、慶應義塾大學經濟學部に復校し、以後は同學部小池基之教授の指導をうけつゝ、中國農村問題、特に「太平天國の亂」の研究に精進し、中國社會近代化の過程とその諸條件探究に努力されると共に、我國封建制崩壞の過程に注目せられていた。かくの如く専門分野の研鑽に日夜努力されると共に、多くの學生の指導にうむことなく、遂に病魔のおかすところとなつた。昭和二十六年八月、靜養中、身心共に恢復し、再起の日間近くなりし盛夏の一日、不慮の災に逢い、忽然として死去せられたのである。

學業半ばにして死去せられた君に、今少しく年月を與え、充分に研究活動の時を藉するならば、自己の専門分野においては勿論のこと、多くの新しき分野において學會に裨益し、又、慶應義塾大學に對しても功多からんことを信するものは私一人ではない。君も豊かな才能と鋭い叡智とを懷きつゝ、若くして、幽冥その所を異にするに至りし事は甚だ不本意の事であつたらう。

君の業績を偲び、君の人格を敬慕し、心より冥福を祈つて止まない。

(島崎隆夫記)

松尾謙介君年譜

- 一、大正十二年四月十七日 長崎市に於て、松尾孫八氏の三男に生る。
- 一、長崎市稻佐尋常高等小學校を経て、長崎縣立長崎中學校第二學年終了後、東京府立第三中學校に轉校し同校卒業
- 一、昭和十七年四月 慶應義塾大學經濟學部豫科に入學
- 一、昭和十八年十二月 學徒動員にて久留米師團に入隊し、其後病氣のため除隊、上海に渡航、同地に滞在す
- 一、昭和二十一年五月 歸國、慶應義塾大學經濟學部に復校し、翌年三月同學部卒業
- 一、昭和二十二年四月 慶應義塾大學副手に任ぜらる。經濟學部勤務。農業經濟學、特に中國農村問題を専攻す
- 一、昭和二十四年十月 「大平天國」―中國近代經濟史研究序説―にたいし慶應義塾學事振興研究補助費をうく
- 一、昭和二十五年四月 慶應義塾農業高等學校講師を兼任。同年九月慶應義塾大學助手に任ぜらる。經濟學部勤務
- 一、昭和二十六年八月十七日 午後五時過河口湖畔にて游泳中心臓麻痺にて死亡す、享年二十八

主 要 論 文

- 「『アジア的生産様式』について」―マルクス草稿「資本制生産は先行する諸形態」を中心として―
- 三田學會雜誌 第四十一卷 第八號(昭和二十三年八月)
- 「會津藩漆生産のシテ」
- 三田學會雜誌 第四十二卷 第四號(昭和二十四年四月)

經濟學會報告(昭和廿六年四月―九月)

- 四月廿六日 ベーコンの社會思想史的研究 植木 憲二
- ナシヨナリズムとインターナシヨナリズム 矢内原 勝
- 第五十七日 第六世紀アントウエルプに於ける商業道德 渡邊 國廣
- 獨占競争と企業家行爲 山部 徳雄
- 五月卅一日 配給費問題と配給過程合理化の限界に 片岡 一郎
- 關する一考察 加藤 寛
- 戦時共產主義時代の工業組織 村井 俊雄
- 六月十四日 金本位制度成立の一條件 大熊 一郎
- 六月廿八日 エコノメトリックスにおける巨視的假設の檢定―デューセンペリーの理論― 服部 成三郎
- J.S.ミルの方法意識と功利主義思想 野村 兼太郎
- 九月廿七日 新井白石の日記に就いて

昭和二十六年九月二十五日印刷 第四十四卷  
昭和二十六年十月一日發行 第十號

禁 轉 載

本號 定價 七拾圓  
送料 三圓

編輯 東京都港區芝三田區大經濟學部内  
發行所 高 村 象 平  
印刷者 川 口 芳 太 郎  
印刷所 東京都港區芝三田區岡町八  
圖書印刷株式會社

豫約購讀料一年分 金八四〇圓(送料共)  
半ヶ年分 金四二〇圓(送料共)

豫約購讀料は發行所宛お拂込み下さい。  
誌代變更の場合は精算決濟致します。  
編集に關する用件、營業に關する用件、販賣  
申込も發行所へ願います。

發行所 東京都港區芝三田二丁目  
慶應義塾大學經濟學部研究室内  
慶應義塾經濟學會  
日本出版協會員B二二〇一六